



物性物理学

量子力学と統計力学を駆使し

物質の力で世界を変革してい



東京大学大学院 工学系研究科 物理工学専攻

世界の階層構造:長さスケール



研究の対象

物質科学(マテリアルサイエンス)

物理学・化学・電気工学・材料工学にまたがる広大な研究分野

固体(結晶,準結晶,アモルファス,…)



ソフトマター、プラズマ、流体、…

共通する普遍的な側面

非常に多く(アボガドロ数程度~10²³)の原子核と電子
 相互作用する多粒子系 = 多体問題

More is different.

by P. W. Anderson (1972)



reductionism vs. constructionism (還元主義 vs. 構成主義)

> intensive vs. extensive (集約的な vs. 広範な)



時間反転対称性 ← → 磁石
 空間反転対称性 ← → 強誘電
 ゲージ対称性 ← → 超伝導

結晶

並進対称性

全ての物質は高々100種類程度の 元素の組み合わせで出来ている



無限の可能性



例)最も高い転移温度をもつ超伝導物質 $HgBa_2Ca_2Cu_3O_{8+\delta}$ $T_c = 134K = -139^{\circ}C$





物性物理学が目指すもの

物 質 が 示 す 不 思 議 な 性 質 を 理 解 す る 物質が隠し持つ 面白い性質や 役に立つ機能を 引き出す

これまで 世界になかった 物質を創り出す

物質の力で世界を変革していく

世界を変革する物質・機能

高温(室温)超伝導:エネルギーロスのない送電網 移動度をもつ半導体:高速処理の可能な半導体素子 高性能な磁石:高密度記憶デバイス 高性能な強誘電体:大容量コンデンサ 強誘電メモリ 高性能な熱電物質:排熱利用によるエネルギー問題解決 高い磁気抵抗効果をもつ物質: 高密度記憶デバイス





More information available at: http://antwrp.gsfc.nasa.gov/apod/ap020811.html

Earth at Night

Astronomy Picture of the Day 2002 August 11 http://antwrp.gsfc.nasa.gov/apod/astropix.html

では、どうやって革新を探求するのか?

物質は原子核と電子で出来ている 物質の性質を決める主役 = 電子

電子や原子核 → 量子力学に従って運動する

アボガドロ数程度の電子や原子核の運動を
 全て追いかけることは(現時点では)不可能
 → 量子統計力学による取り扱い

古典力学 → 量子力学

ニュートンの運動方程式

 $\vec{F} = m\vec{a} = m\frac{\mathrm{d}^2\vec{r}}{\mathrm{d}t^2}$

ある時刻における状態が求まれば 全ての時刻での運動が決まる

◎ ラプラスの悪魔 ―決定論的世界観―

もしもある瞬間における全ての物質の力学的状態と力 を知ることができ、かつもしもそれらのデータを解析 できるだけの能力の知性が存在するとすれば、この知 性にとっては、不確実なことは何もなくなり、その目 には未来も(過去同様に)全て見えているであろう。 (Pierre-Simon Laplace, 1812)



古奠力学 → 量子力学

シュレーディンガー方程式 電子や原子といった 極微の世界を 記述する基本方程式 $i\hbar\frac{\partial}{\partial t}\Psi(\vec{r},t) = \hat{H}\Psi(\vec{r},t)$ $\hbar = \frac{h}{2\pi}$ h: プランク定数 $\Psi(\vec{r},t)$:波動関数 \hat{H} :ハミルトニアン演算子 $|\Psi(\vec{r},t)|^2$:量子的な粒子が時刻t,位置 \vec{r} に存在する確率 粒子の運動を決定論的に追いかけることは原理的に出来ない ◎ ハイゼンベルグの不確定性関係

 $\Delta x \Delta p \gtrsim \frac{\hbar}{2}$

量子的な粒子の位置*x*と運動量*p*を 同時に^{<u>ħ</u>}以上の精度で測定することは 原理的に出来ない

量子統計力学

● 統計力学:多数の粒子からなる系の巨視的な性質を統計的 (確率的)な視点から記述

◎ 量子統計力学:量子力学に従う多数の粒子に対する統計力学



研究の最先端 [1] 高温超伝導

J. G. Bednorz and K. A. Muller (1986) 1987年 ノーベル物理学賞



Fig. 1. Temperature dependence of resistivity in $Ba_x La_{5-x} Cu_5 O_{5(3-y)}$ for samples with x(Ba) = 1 (upper curves, left scale) and x(Ba) = 0.75 (lower curve, right scale). The first two cases also show the influence of current density

何が革新的だったのか?
 電気が流れないセラミックに少し混
 ぜ物をすることで高い転移温度を持
 つ超伝導が現れることを見出した



例)最も高い転移温度をもつ超伝導物質 $HgBa_2Ca_2Cu_3O_{8+\delta}$ $T_c = 134K = -139^{\circ}C$ (月面の夜間気温 -170°C)

研究の最先端 [1] 高温超伝導



発見から30年近く経つがメカニズムは未解明 電子の間に働く強い相互作用が鍵?:強相関電子系





多くの日本発超伝導体



前野 悦輝 教授 (京都大学) Sr₂RuO₄

細野 秀雄 教授

(東京工業大学)

LaTMPnO

秋光 純 教授 (青山学院大学) MgB2





研究の最先端 [2] 量子ホール効果

K. von Klitzing *et al*. (1980) 1985年 ノーベル物理学賞



ホール効果:電流に垂直な方向に磁場をかけると 電子に働くローレンツ力に起因して電流と磁場の 両方に直交する方向に起電力が発生する



2次元面に閉じ込められた電子に 強い磁場をかけるとホール抵抗が 量子化することを見出した

何が革新的だったのか? …

→ 日常のスケールで量子力学の世界が現れた

研究の最先端 [2] 量子ホール効果



^{研究の最先端} [3] トポロジカル絶縁体

C. L. Kane and E. J. Mele (2005) 20XX年 ノーベル物理学賞?



FIG. 1 (color online). Energy bands for a one-dimensional "zigzag" strip in the (a) QSH phase $\lambda_v = 0.1t$ and (b) the insulating phase $\lambda_v = 0.4t$. In both cases $\lambda_{SO} = .06t$ and $\lambda_R = .05t$. The edge states on a given edge cross at $ka = \pi$. The inset shows the phase diagram as a function of λ_v and λ_R for $0 < \lambda_{SO} \ll t$.

トポロジカル絶縁体:物質の内部は 電気を通さない絶縁体にもかかわら ず表面が金属的になる特殊な絶縁体

対称性により保護された表面状態
相対論的な粒子であるヘリカルな
ディラック粒子の出現
理論が実験を先導

理論的な新しい提案,実験的な検証・物質探索 新しいエレクトロニクスへの応用の可能性

急速に研究が進展中